

# Cisco Call Manager Denial of Service ( DoS/DDoS )

severity アドバイザリーID : cisco-sa-  
20060118-ccmdos [CVE-  
2006-  
0368](#)  
初公開日 : 2006-01-18 16:00  
バージョン 1.0 : Final  
回避策 : [Yes](#)  
Cisco バグ ID :

**日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。**

## 概要

Cisco Unified CallManager ( CCM ) はデバイスを、Voice over IP ( VoIP ) ゲートウェイ処理する IP 電話、メディアおよびマルチメディアアプリケーションのようなパケットテレフォニー ネットワーク デバイスにエンタープライズテレフォニーの特徴や機能を拡張する Cisco IP Telephony ソリューションのソフトウェアベースの呼出処理コンポーネントです。すべての Cisco CallManagerバージョンは割り込まれているサービスがサーバリブートという結果に終るかもしれないこれらのサービス拒否 ( DoS ) 不正侵入に脆弱です。

シスコでは、該当するお客様用に、この脆弱性に対応する無償ソフトウェアを提供しております。利用可能なネットワークベース回避策が脆弱性の効果を軽減するためにあります。

このアドバイザリーは <http://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20060118-ccmdos> で掲示されます。

## 該当製品

### 修正済みソフトウェア

- Cisco CallManager 3.2 およびそれ以前
- Cisco CallManager 3.3、先のバージョン 3.3(5)SR1a より
- Cisco Unified CallManager 4.0、先のバージョン 4.0(2a)SR2c より
- Cisco Unified CallManager 4.1、先のバージョン 4.1(3)SR2 より

他のシスコ製品においてこのアドバイザリーの影響を受けるものは、現在確認されていません。

### 脆弱性を含んでいないことが確認された製品

他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

## 改訂履歴

リビジョン 1.0	2006-January-18	初回公開リリース
--------------	-----------------	----------

## 利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。